

サイオステクノロジー

3744 東証 2 部

2015 年 6 月 4 日 (木)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
フィスコアナリスト

■ 新製品開発や M&A を推進、中計の達成に向けて着実な布石

サイオステクノロジー <3744> はオープンソースソフトウェア (以下 OSS) とクラウドコンピューティング (以下クラウド) を軸に、Web アプリケーションや OS、IT システムの開発・基盤構築・運用サポート等の事業を展開。主力製品はシステム障害時のシステムダウンを回避するソフトウェア「LifeKeeper」や、MFP 向け文書管理ソフトなど。OSS の技術サポート体制では国内でもトップクラス。

2015 年 12 月期の第 1 四半期 (2015 年 1 月 - 3 月期) には、世界で初めて機械学習技術を用いた画期的な IT オペレーション分析ソフトウェア「SIOS iQ」の無償版提供を開始し、(株)キーポート・ソリューションズ (以下 KPS) の株式を取得し連結子会社化、(株)プレナス <9945> との米国における共同出資による合弁会社の設立などが推進された。

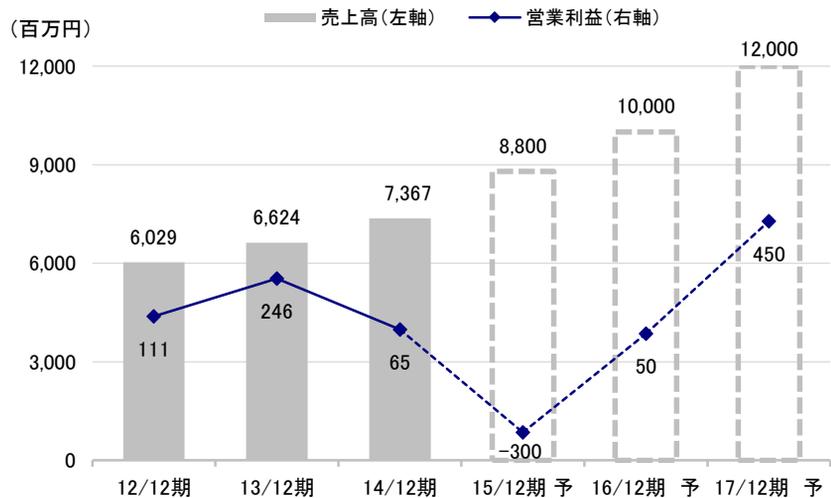
中期経営計画の達成に向けて、研究開発費の増額、将来の基盤作りのための施策推進により、2015 年 12 月期の利益は当初の業績予想どおり一時的に減益が予想されている。ただ、研究開発や M&A において将来の布石も含めて施策の一端が具体的に見え始めたことは、中期経営計画との整合性という観点において安心感の造成につながると想定される。

なお、同社では中期計画として、最終年度となる 2017 年 12 月期に売上高 12,000 百万円、EBITDA (営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費) で 500 百万円を目標として掲げている。償却費が現状維持のペースであれば営業利益は 450 百万円程度となる見込みだ。研究開発投資を積極的に行い、コアビジネスの競争力強化に加えて、M&A を含む新たな事業創出に取り組み、成長を加速化していくための基盤作りを進めていく期間と位置付けている。

■ Check Point

- ・ 主カソフト「LifeKeeper」の国内シェアはトップクラス
- ・ 機械学習技術の IT オペレーション分析ソフトウェアの無償版を提供開始
- ・ KPS の株式取得 (連結子会社化) により金融業界を中心に情報技術サービスの拡充
- ・ プレナスとの合弁会社設立により飲食店向け IT システム開発・販売等の強化
- ・ 中期計画は 2017 年 12 月期に売上高 12,000 百万円、EBITDA500 百万円

中期経営計画



■ 第 1 四半期の主なトピックス

KPS 社を子会社化、「SIOS iQ」の拡販においてシナジー効果期待

○機械学習技術を用いた IT オペレーション分析ソフト「SIOS iQ」

2015 年 12 月期の第 1 四半期（2015 年 1 月～3 月期）には、世界で初めて機械学習技術を用いた画期的な IT オペレーション分析ソフトウェア「SIOS iQ」の無償版提供を開始している。

「SIOS iQ」はシステム障害の発生リスクを未然に防ぐほか、IT 管理者の作業負荷の大幅軽減にも寄与する製品である。特に多くのサーバーを使用し、大量のデータ処理を行う金融業界や放送・通信業界、EC のマーケットプレイス企業においては、IT 管理者への負荷増大が深刻な問題となっている。この問題解決に寄与することもあり、今後の同社の収益を大きくけん引する大型製品として注目される。

○M&A 等

同社では 4 月 15 日、(株)キーポート・ソリューションズ（以下 KPS）の株式取得（連結子会社化）を発表した。取得価格は 402 百万円、取得の相手は ACA 戦略投資 3 号投資事業有限責任組合（無限責任組合員かつ出資比率 2.1% の ACA(株) が業務執行組合員であり、同社は同投資事業組合に 95.7% を出資する有限責任組合員）の保有する KPS 全株式（議決権所有割合 90.51%）となる。

KPS は証券業界を始めとする金融業界を中心に、多重処理や拡張性に優れたオブジェクト技術をベースとしたシステム・アプリケーション開発を行っている。また、ヘルスケアや不動産業界等にもデザイン・開発・運用・保守まで一貫した情報技術サービスを提供している。また、「SIOS iQ」の拡販が期待される金融分野においても、シナジーが期待される。

KPS の業績は順調に拡大しており、2014 年 3 月期業績は売上高で前期比 7.3% 増の 1,303 百万円、経常利益で同 3.4 倍の 136 百万円が計上されている。KPS 連結会社化による同社の 2015 年 12 月期業績予想は、増収を見込むものの、各利益項目は引き続き研究開発費の先行投資を積極的に行う方針であり、据え置きとなった。

2015 年 6 月 4 日（木）

■第 1 四半期の主なトピックス

現状、同社は 2017 年 12 月期を最終年度とする中期経営計画を推進中であり、売上高で 12,000 百万円、同社が経営指標として重視する EBITDA で 500 百万円（営業利益で 450 百万円）を目標に掲げている。新規事業(M&A 含む)で売上高の 1 割以上を目指しており、「SIOS iQ」以外にも複数の新製品・サービスを開発中だ。その達成のため、研究開発費の増額、将来の基盤作りのための施策推進により、2015 年 12 月期の利益は当初の予想どおり一時的に減益が予想されているが、将来の布石も含めて施策の一端が具体的に見え始めたことは、中期経営計画との整合性という観点において安心感の造成につながると想定される。

○東証マザーズから東証 2 部への市場変更

東証マザーズ上場後 10 年を経過した上場企業による上場市場の選択に基づき、同社は東京証券取引所市場 2 部への市場変更を選択した。5 月 1 日より東証マザーズから東証 2 部へ市場が変更になった。

■決算動向

増収を達成するも研究開発費を増額し減益

2015 年 12 月期の第 1 四半期決算

第 1 四半期（2015 年 1 月－3 月期）決算は売上高で前年同期比 9.5% 増の 2,099 百万円、営業利益で同 74.0% 減の 25 百万円、経常利益で同 67.7% 減の 33 百万円、四半期純損失で 27 百万円（前年同期は 52 百万円の黒字）となった。同社が経営指標として重視する EBITDA は、前年同期比 66.9% 減の 38 百万円。当初予想どおりに研究開発費を増額（前年同期比 50.8% 増の 164 百万円）しており、増収こそ達成したものの減益となった。

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ